

## 会議録

会議の名称	令和4年度第6回新城市若者議会 中間報告
開催日時	令和4年8月24日（水）午後7時から午後9まで
開催場所	新城市役所4階会議室
会議の内容	令和4年度第6回新城市若者議会 ・政策中間報告 ・委員会での話し合い

### 1 政策中間報告

各委員会から現状検討をしている政策についての報告が行われた。報告された内容は以下のとおりである。

交 流 委 員 会	<p>「市民同士が助け合えるまち～市民同士が助け合い、安心して住み続けられるまち～」を実現したい未来として掲げる。日常の中で助け合うのはもちろん、災害時にも助け合えることを目標とし、外国籍の方を含む全ての市民がこのまちを好きになり、安心して住み続けられるような未来を考えている。</p> <p>コロナ禍による人と会う機会の減少とインターネットの普及により人に頼らなくても生きていける便利な時代になってしまったことにより、近所の人がどういった人なのかあまり知らないという人が増加している。日常や災害時の助け合い、そして安心して住み続けられるまちにするには、普段からの交流が必要不可欠だと考えた。</p> <p>さらに、この問題を解決し、未来に近づくために「気づいたら交流している」を目標とする。意識せずとも自然とコミュニケーションをとることで様々な場面で助け合えるようになるのではないかと考えた。そのために市民一人一人の身近に住む人同士の交流をもっと深めたいと考えている。まずは交流に興味を持っている人を対象にアクションを起こすことで、交流に消極的な人達も取り込んでいこうと考えている。</p> <p>現段階では「今ある交流を発信する」また「交流できる場を作り出す」政策案として、地域自治区制</p>
-----------	---

	<p>度や小中学校で行っているバザーの活用、近所の方との会話、地域で行っているイベントの活用など様々なアイデアが挙がっている。いずれもオンラインではなく対面で交流した方がいいという意見であった。</p> <p>今後の委員会では身近な人との交流がより活性化されるように内容を濃くしていく。</p>
<p>教育・子育て委員会</p>	<p>新城市が現在抱える課題など様々な視点から話し合った結果、子育ての環境が良いまちをつくるというざっくりとした目標ができた。</p> <p>これをもとに3つの基盤を決定した。</p> <p>①課題を身近に感じやすく、課題解決した際にニーズに合っていたかがわかりやすい新城市内を対象とする。</p> <p>②ターゲットは、若者。自分たち自身が若者であることから、若者目線の政策が考えやすく、また若い時に教育や子育ての知識を身につけておけば、実際に親になった際に役立つ。</p> <p>③若者自身の将来の幸せのために政策を行う。若者に子育ての意識や知識がないこと、人生を生きるための性知識やお金の知識が十分でないことから、これらを解決すれば、その先に幸せがあるのではないかと考えた。</p> <p>その手段として子育てに必要な費用や知識、人生に必要な性教育の知識等について学べる機会をつくることを政策の方向性として検討しており、将来的な子育て環境の充実さに繋がると考えている。</p> <p>以上3つの基盤をもとに政策を検討していく。</p>
<p>観光委員会</p>	<p>県内で新城市の名前を知っている人は多くいるが、実際に市内にある魅力を知っている人が少ないと考えたことから、まずは「知ってもらう」ことで観光客の増加を目指す。</p> <p>ターゲットは、県内や浜松市などの近隣市在住の子ども連れの家族で、知ってもらう対象は親。新城市での思い出を子どもの記憶に残すことで、その子どもが大人になったときに自分の子どもを連れて来てくれるという好循環になり、最終的には住んでもらいたい。子どもの年齢は記憶が残りやすい小学生ぐらいを想定している。</p> <p>この目的とターゲットを踏まえ、2つの事業を検</p>

	<p>討している。</p> <p>①電子媒体を用いたPR事業  小学生くらいの子どもの持つ親が多い30代において、94%という高い利用率を誇るYouTubeの広告機能と投稿機能を活用する。広告を見て新城市に興味を持った人に詳細ボタンをクリックしてもらうことで、より詳しい内容を知ってもらうことができ、実際に足を運んでもらうことに繋がると考えている。動画については、ただ綺麗な自然を見て終わる内容にはならないよう、何か一捻りを加えることで印象に残りやすい内容を検討していく。</p> <p>電子媒体を活用することで、新城市を知りたい人に加え、知らない人の目にも触れることができる。また、気軽に見ることができるという利点もある。</p> <p>②紙媒体を用いたPR事業  リーフレットとポスターの作成・設置を考えている。リーフレットは、実際に手に取ってもらい、手元に残ることで、情報を後からも知ってもらうことができ、新城市の情報を長期間にわたって知ってもらうことができる。一方、ポスターは自然と目に入りやすいので、リーフレットよりも見てもらうことへのハードルが低いというメリットがある。1度見るだけでなく、日常的に何度も目にすることで「新城市に行ってみようかな」と思ってくれると考えた。</p> <p>設置については、市外それぞれの地域の特性に合った場所を検討していく。</p>
--	---

## 2 委員会での話し合い

各委員会で政策検討を行った。以下は、政策検討の後に各委員会から共有・発表された内容である。

<p>観 光 委 員 会</p>	<p>電子媒体と紙媒体を用いたそれぞれの事業の実行性、継続性、費用対効果について話し合った。今回の会議ではまとまりきらなかったため、次回の会議でさらに詳細を詰めていく。</p>
<p>交 流 委 員 会</p>	<p>「気づいたら日常的な交流していた」を目標に、他の委員会から出た案などを振り返りながら政策検討を行った。ラジオ体操や電子回覧板を用いて、地域の方と交流をするという案が出た。次回以降も引き続き政策を検討していく。</p>

教育・子育て委員会	<p>前回の委員会で、学校で性教育やお金のことについて学ぶのかどうかという点を調べることを宿題にしていた。それを踏まえ、知る・学ぶ手段について以下の4つの案が出た。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①講座を開く</li><li>②公共施設にポスター等を掲示する</li><li>③動画を作り投稿する</li><li>④〇〇週間のような啓発週間を作る</li></ul> <p>大学生、高校生、中学生それぞれの間に知識の差があるため、次回は子育てや性についてそれぞれの世代がどこまで知っていて、どんなことを知らないのかを整理し話し合う。</p>
-----------	---

終了時間：午後9時